
華の香り

_瑠姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

華の香り

【Nコード】

N5181BA

【作者名】

— 瑠姫

【あらすじ】

華の香りをまとう不思議な少女。

しかしそれは…

私は今、混みに混み合っている新しく出来たショッピングセンターに来ている。

開店セールでめっちゃ安くなってるから服とか靴とか…色々買ううと思っている。

店内案内図を見ながら服のショップを探していると

「ちょっと失礼します」

突然声をかけられてビックリしたが

私の前を通ろうとしただけだった。

通り過ぎるときにはフワリと華の香りがした。

真っ白なワンピースを身にまとい高いヒールなのにさっそうと歩いてゆく。

年齢的にはまだ高校生ぐらいだろう…

腰まである黒髪ストレートな髪を靡かせながら前を通り過ぎていった。

ちょっとだけ見惚れたがすぐに我に戻り

服屋を探し始めた。

トコトコと人が多いなかを歩いていると

お目当ての服屋が見つかった。

「いらっしやいませー」

店内に入った。

そして驚いた。

さっきの子がいたのだ。

「なにかお探しですかー？」

ぼつっとしてその子を見ていると店員さんに声をかけられた。

「…えっあの、チラシに載っていたスカートがほしくて…」

店員さんに目を向けてチラシを出す。

「ああ、それでしたら…」

店員さんが走ってそのスカートを取りに行く。

その際に振り返りさっきの女の子がいたところを見る。

唾然とした。

もういなかったのだ。

数十秒で店を出たのか…

「こちらでよろしいですか？」

ハッとして店員さんを見る。

「はい…お会計お願いします…」

もう一度店内を見回したがさっきの子はいなかった。

行動早いな…

そう思って無理矢理不思議な気もちをしまいこんだ。

「ありがとうございますー、またお越しく下さいませ」

スカートが入ったショップの可愛い袋を持ち店を出た。

次は靴屋だ…

混んでる道をかき分け走って靴屋に入った。

フラリとした。

さっきの…さっきの人が…

あんな人ごみを…

私より早く？

ありえない…

呆然と立ち尽くす私を見て睨む店員さん。

居づらさと恐怖で店を飛び出した。

いつかい落ち着こうとコーヒーショップに入る。

「いらっしやいませ、あいてるお席へどうぞ」

あいてる席…あそこにしよう。

窓のそばで外が見える席を選んだ。

「珈琲、ひとつ」

「かしこまりました。あの…」

「え？」

気まずそうに店員が指差す方向を見る。

「そちらの方は？」

華の香りと共にその少女は私の隣にいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5181ba/>

華の香り

2012年1月14日12時57分発行